

科学技術部馬副部長挨拶

尊敬する日本参議院議員有馬朗人先生

尊敬する JST 理事長沖村憲樹先生

ご出席の皆様

本日、科学技術振興機構(JST)の「中日科学技術協力 -科学技術と環境-」シンポジウムが開催されるにあたり、中国側出席者を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

科学技術振興機構は、日本の文部科学省を主務省とする独立行政法人であります。同機構は基礎的、戦略的な科学研究の展開、および科学技術成果の企業化と科学知識の普及を主な任務としています。同時に、日本の文部科学省から委託され、対外的な科学技術協力と交流を行うという役割も担っています。科学技術振興機構は中日の科学技術協力と交流の促進という分野で、多くの有益な事業を行っております。双方のより良い交流と協力を図るため、中国の国家科学技術部の認可を得て、昨年北京に同機構の代表処が開設されました。本日は、同機構北京代表処が設立されて以来、初めて開催される大規模なシンポジウムとなります。シンポジウムでは、中日両国科学技術界の著名な専門家、友人、有識者の皆様を招き、一堂に会して中日の科学事業協力と発展について心おきなく語り合うことになっております。これは非常に有意義なことであり、この点についても、中国政府、科学技術部を代表してお礼を申し上げます。

現在、世界では平和と発展が時代のテーマとなっています。中日両国はアジアと世界における二つの重要な国として、世界の平和維持と共同発展に対する大きな責任を負っております。中日両国は一衣帯水の隣国であり、国交成立後 30 年来、相互に安定と発展を促進するという点で著しい成果をあげる協力を行ってまいりました。両国の貿易は既に 1000 億 US\$ を上回っております。日本は中国にとって最大の貿易パートナーとなり、中国も日本にとって第二の貿易パートナーとなっております。現在、双方は既に 21 世紀における「平和と発展に力を注ぐ友好協力パートナーシップ」を確立する、という目標を掲げております。今年は中日平和友好条約調印 25 周年にあたり、中日関係は重要な発展段階に入ることになります。我々は両国関係が向かうべき方向を正確に把握し、21 世紀における中日関係の発展をより推し進め、経済と科学技術の分野でより多くの貢献をしなければなりません。

現在、中国の新たな科学技術発展計画——「第十次五ヵ年」計画の制定がすでに完了し、「イノベーションと産業化」を新しい時代における中国科学技術事業の指導方針といたしました。第一に、科学技術事業自身の発展を加速し、科学技術の創造力を高め続ける。第二に、科学技術の経済と社会の発展に対する貢献度の向上を急ぐ、というものです。

また、我々は科学技術の国際協力を十分に重要視しております。科学技術は、多くの国際協力と切り離すことはできません。特に現在と未来の人類の生存環境に関わる海洋、大気、環境保全と巨大科学(Big Science)などの分野では、世界各国の参加と協力が不可欠です。我々は、他の先進国が積極的に中国国家科学技術各専門プロジェクトに参加されることを歓迎いたします。中国は日本との科学技術協力関係を発展させ、我々が手を取り合って共に未来を作り上げることを何より重要であると考えており、科学技術振興機構が中日の科学技術協力を促進する中で行ってきた貢献を喜ばしく見守っております。例えば、清華大学と日本東京大学、中国科学院上海光学精密機械研究所と京都大学などで、JSTの協力と資金援助により効果の著しい共同研究が行われました。今年2月に開催された「第10回中日科学技術協力委員会」の(重点分野の協力強化に)関連する精神に則り、最近JSTは新たに「戦略的国際科学技術協力推進事業」を始めており、新しい協力は特に環境とエネルギーの分野で展開されることとなります。今後、中日の科学技術協力はより広範な領域で、より多様な形式によって行われ、プロジェクトはより多くの効果を挙げることになると確信いたしております。両国科学技術の発展と友好のため、今まで以上に大きく貢献することになるでしょう。

最後に、科学技術振興機構の中国における協力事業が大きく発展されますことを、今回のシンポジウムが成功を収めますことを祈念いたします。また、沖村先生と有馬先生が北京で実り多い時間を過ごされますことを願っております。

ご清聴ありがとうございました。